

漱石が詠んだ場所と花々

旧五高

熊本市黒髪にある第五高等学校(現在の熊本大学)には、後に有名な作家となった二人の英語教師が教鞭をとっていました。一人は、ラフカディオ・ハーン(小泉八雲)で明治24年11月~27年10月の3年間、第五高等学校で英語を教えていました。月給2百円でした。もう一人は夏目漱石で、明治29年4月~33年7月までの4年3ヶ月間、第五高等学校で英語を教えました。月給は百円でした。漱石は「名月や 十三円の 家に住む」という句を第二旧居「合羽橋の家」に住んでいる頃詠んでいます。十三円は、普通の人々の月給程度で家賃としてはとても高価だったそうです。

いかめしき 門を這入れば ^{そば}蕎麦の花



蕎麦(そば)の花 : 蕎麦はタデ科ソバ属の一年草。秋に花びらが5枚の可憐な花を咲かせます。



藤崎宮

藤崎宮はもともと熊本城西側(現在の藤崎台球場)にありましたが、明治10年の西南の役で焼けたため現在地に移りました。9月11日～15日の放生会は藤崎宮秋の例大祭として市民に親しまれています。次の句は、藤崎宮横の明午橋近くにあった漱石第4旧居に住んでいた頃に詠んだ句です。また、漱石は藤崎宮参道横の相撲の吉田司家の近くにある漱石第6旧居にも住んでいます。熊本にいた4年3ヶ月の間に6軒の借家に住んだ引越し魔でもあったようです。

ねぎ えぼし
禰宜の子の烏帽子をつけたり藤の花



禰宜: 神官

烏帽子: 昔成年男子が日常用いたかぶりもの。今は、神官などが使う。(新明解国語辞典より)



新屋敷

傘を菊にさしたり 新屋敷



漱石は明治30年9月～31年3月の間、大江村の第3旧居（現在は水前寺公園横に移築）に住んでいました。新屋敷のあたりは、明治3年に明午橋が架けられ、北のほうに発展していきました。安巳橋に近いほうを古屋敷、明午橋の北のほうを傘（からかさ）と通称していたそうです。

